



- ◇自然災害への備えを 村田武一郎(理事長)……………1頁
- ◇天理市制 70 周年記念「やまのべ・大和三山クラシックカーフェス 2024」を開催
井ノ本直三(地域 P&C 第 2 期生/副理事長) ……2頁
- ◇地域づくりのためにー音楽による地域視点 堀越正夫(地域 P&C 第 3 期生/専務理事・事務局長)……5頁

自然災害への備えを

村田武一郎(理事長)

新年おめでとうございます。皆さまにおかれては、お健やかに新年を迎えられたことと存じ上げます。

正月にはめでたい話題を記したいところですが、どうしても触れておかなければならないことを優先します。近年、地震、豪雨・豪雪などによる大災害が頻繁に起きています。

昨年は、よりによって1月1日に、能登で最大震度7の大地震が発生しました。その惨状たるや、凄まじいものがありました。そして、復旧すら進んでいない状況下、追い打ちをかけるように、9月21日から23日にかけて、豪雨による大水害にみまわれました。能登の方々の困苦に、心が痛みます。仮設住宅が昨年12月22日によりやく全戸完成し、同27日には能登半島を一周する基幹国道249号線が全線復旧しましたが、「復興」には、まだまだ長い道のりがありそうです。古代には大陸と相対する表玄関の役割を担い、江戸時代からは北前船による日本海～瀬戸内海の交易の要衝として発展した歴史をもち、生活文化・海産物・伝統工芸等が豊かな能登の早期の「復興」を、能登の方々が安寧に暮らせることを祈ります。

一方、今年、阪神・淡路大震災から30年の節目の年であります。1月17日には、多くの追悼行事等が行われます。被災地域は、「復興」したのでしょうか？ 都心である三宮地区には、多くの高層住宅が建てられ、人口が増えました。商店街は、三宮センター街が賑わう反面、その西へ伸びる元町商店街が疲弊しています。ウォーターフロントのメリケンパークやハーバーランドは賑わっています。海上都市ポートアイランドでは、医療産業都市づくりが進展し、多くの新価値が創造され、雇用が増えています。被害が甚大であった長田区では、昨年12月、震災復興事業の最後の建物が竣工しましたが、これまでに建てられた震災復興ビルは、空きスペースが目立っています。長田区では、大震災前の活気を取り戻せず、疲弊が進んでいます。この30年で、高層建造物が増え、いくつかの「拠点復興」は進んだのですが、発展する拠点と取り残される地区との差異が際立っています。「復興」は、簡単なものではありません。そして、人々の心の傷を癒すには至っていないように感じます。

私たちは、災害を「よそごと」と見てしまいがちですが、いざという時への備えを怠りなく進めておく必要があります。2024年8月8日、気象庁から南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表されました。これからは、何があってもおかしくないと考えておくことが肝要です。阪神・淡路大震災では関連死を含め6,434人、東日本大震災(2011年3月11日)では同15,900人、能登半島地震では同504人の方々が命を落とされました。いま一度、自らの安全確保を考えてみませんか。そして、人と人とのつながりの大切さ、となり近所とのつき合いの大切さを再確認ください。合わせて、地域での防災・減災体制づくり、各種事業者との災害時の連携協定などについても再確認ください。

皆さまにとって、今年が良い年でありますように願っています。また、世界が平和で希望に満ちた、地球環境への負荷を減らしつつ発展する2025年になることを願っています。

天理市制 70 周年記念「やまのべ・大和三山クラシックカーフェス 2024」を開催

井ノ本直三(地域 P&C 第 2 期生/副理事長)

◆はじめに

日本の成立期に大きな役割を果たしたこの天理地域は、貴重な歴史遺産と物語に満ちている地域です。「日本」、「やまと(大和)」が誕生したこの地で、天理市制 70 周年の 2024 年に、地域が育んだ歴史、文化、精神性を広く発信し、地域交流の機会を創出する体験型・参加型のイベントを検討していました。

1. クラシックカーイベントの開催にあたって

近年、クラシックカーイベントは、規模の違いはあれど全国各地で好評を得ています。県内でも、大規模イベントとしては、2022 年に橿原運動公苑で開催され、翌 2023 年の第 2 回目は、荒天により中止を余儀なくされたところでした。

2024 年は、天理市の市制 70 周年でもあり、『まほら天理』による地域活性化事業として“クラシックカーイベントの開催”を検討していたところ、橿原地域と連携(主導は天理)できることとなり、実行委員会を組織し、事業タイトルを『やまのべ・大和三山クラシックカーフェス 2024』とし、2024 年 11 月 17 日(日)午前 9 時から午後 3 時まで、天理市豊田町の天理教北大路乗降場及び隣接グラウンドにて開催いたしました。NAED からも後援名義をいただきました。

当日は、好天に恵まれ、クラシックカー展示会場と交流イベント・マルシェ会場は、大変な賑いで、約 8,000 人の来場者がありました。

前日は午前 9 時から会場準備で、曇天で小雨も降りしきる中、スタッフ一同、本番の天候を気にしながらの奮闘。気象予報も傘マークが消えないまま、本番を迎えることとなり、本番当日は、早朝の午前 6 時過ぎにスタッフが集合、未だ明けやらぬ中からエントリー車の誘導・入場も始まりました。

そろそろ夜が明けてくると、皆の願いが通じたのか、はたまた日頃の行いが良かったのか、青空が広がり嘘のような晴天でスタッフにも笑顔が溢れていました。もし、雨天であったら、大切にまた綺麗にしている愛車が濡れたり汚れたりすることから、出場エントリーの取りやめも相当出ているかも知れません。



西側会場入り口



以下、イベント内容、エントリー車両内訳、アンケートについて紹介いたします。

2. イベント内容

約 100 台のクラシックカーに加え、スーパーカーなどを含む合計 136 台の車両展示を行い、特別ゲストとして奈良県出身で自動車ライター&ジャーナリストの西川淳氏、同じく奈良県出身の自動車ジャーナリストの今井優杏氏によるトークショーやエントリー車両の紹介などがありました。

また、公的車両コーナーでは、パトカー・白バイ、自衛隊車両、消防車両、JAF のレッカー車両の展示に併せ、子ども用の迷彩服・帽子を被るなど、ハンドルを持って記念撮影するなどの体験イベントも行われ、多くの親子連れが、普段は遠くから眺めている特別車両に直接触れる機会となりました。

キッズコーナーでは、ミニ四駆や段ボール迷路、クラフトや幼児の遊びの広場、ドローン展示なども好評を得ていました。

マルシェ会場では、キッチンカー 10 台、飲食テントブース 12 件のほか、物販や建築士会による木工体験などにより、終日大盛況で、長蛇の列。また、受付横に復興支援としての石川県物産のチャリティー販売テントを設置し、午後 2 時前には完売するほどの人気を博していました。

併せて、ステージイベントとして、天理市 PR 大使などゆかりのアーティスト 4 組が出演し、会場の盛上げを担っていただきました。



キッチンカー設営

3. エントリー車両の内訳

エントリー車両は、1985 年以前に製造されたクラシックカーと実行委員会推薦車両が 97 台、クラシックカー & スーパーカー特別枠 24 台、奈良トヨタ、八光自動車など協賛団体から 15 台の合計 136 台

(1)クラシックカー及び実行委員会推薦車両台数内訳

国産:トヨタ;10台(1971年セリカ、1965年スポーツ800ほか)

日産;16台(1972年フェアレディ240ZG、スカイラインGT-Rほか)

マツダ;3台(1966年ファミリア、1976年コスモAPほか)

ホンダ;2台(1968年S800Mほか)

いすゞ;2台、スズキ;1台、ダイハツ;1台 計35台

ドイツ;ポルシェ13台(1961年356B、1974年914SLほか)

メルセデス4台(1966年300SEクーペ、1977年450SLCほか)

VW;3台(1969年ビートル、1964年コンバーチブルほか)

BMW;4台(1974年2002TURBO、1972年3.0CSLほか)

アルマゾル;1台、ベック;1台 計26台

イギリス;MG5台(1949年YT、1967年MGBGTほか)

ロータス4台(1967年エラン、1969年ヨーロッパほか)

ケータハム4台(1985年スーパーセブンほか)

モーガン2台、トライアンフ1台、オースチン1台、アルビス1台、

シエルビー1台、ローバー1台 計20台

イタリア;アルファロメオ9台(1966年SPIDER1600、1972年GTVほか)

フィアット1台、ランチア1台、アウトビアンキ1台、計12台

アメリカ;シボレー2台(1960年コルベットほか) 計2台

フランス;ルノー1台

スウェーデン;Saab1台



(2)クラシックカー&スーパーカー特別枠内訳

アメリカ;オーバーン 1933 年・・・現存は世界で数台、殆どが博物館

公道を走行できる(車検を受けている)のは、現車両のみと考えられる。

なお、この車両は“天理教”が保有

国産;トヨタ 2000GT1969 年・・・幻の名車と言われている。九州から陸送

ホンダ 1991 年 NSX・・・世界初のオールアルミボディ

イタリア;フェラーリ(2024 年 296GTS)

このほか、西川淳氏の紹介によるスーパーカー、宮崎から陸送のマクラーレン、フェラーリ、ランボルギーニなど合計 24 台が集結。 また、協賛団体からは、レストア車など 15 台の展示がありました。



4. 来場者アンケート

当日、来場者を対象にアンケートを実施し、そこでは否定的な意見はなく、駐車場が遠い、休憩場所が狭いなどの要望もありましたが、イベント運営については好意的で、楽しい、懐かしい、欲しい、カッコ良い、憧れの車など、次回開催を求める声が圧倒的でした。

クレームやトラブルもなく終わることができ、後援をはじめ協力団体、協賛団体に感謝するところです。

187 名に回答いただいたアンケート結果によると、来場内訳は天理市内が 20%、大阪府が 18%、奈良市を含む県内が 48%、その他の府県が 15%で、愛知県、静岡県、岐阜県など遠方からの来場もありました。

来場者の 8 割が市外・県外からの来訪であり、交流人口を増やし、地域の魅力発信という目的に合致するイベ

ントができたと考えています。

なお、男女別では、67%が男性。年齢別では、50歳台が32%、40歳台が17%、60歳台が16%、30歳台が12%と、中高年齢者に人気のあるイベントと見てとれます。

◆おわりに

会場となった広大な敷地の確保をはじめ、設営準備、当日運営、撤収など多くの人的サポートが確保できたことは、天理教、天理大学からの地域貢献ボランティアによるところが大であり、感謝しかありません。

また、収支面でも大規模イベントにもかかわらず、赤字が発生しなかったことは協賛面や運営への参画、更には、企業版ふるさと納税の活用も効果的でありました。

今回、天理市での初めての大規模イベントということであり課題も確認できたことから、次回開催に反映させることとしています。

なお、「まほら天理」のHP<<<https://mahoratenri.com>>>では、エントリー車両、協賛団体の詳細も掲載しています。

地域づくりのためにー音楽による地域視点

堀越正夫(地域P&C 第3期生/専務理事・事務局長)

◆はじめに

私は、地域づくりに間接的に関わることが多く、自治会などの地元活動ぐらいしかなく、皆さまにご紹介するようなものはありません。そのことから、このNAED通信においては、事例をあげさせていただくことはできない状況です。今回の稿も、地域づくりとの関わりで、物ごとを考えてみたいと思います。

かなり前になりますが、「奈良の将来ビジョンをつくるフォーラム」の発表会の準備時に、開会前に流す音楽を選ぶ機会がありました。その頃、私は、クラシック音楽ばかり聞いていたこともあり、ドヴォルザーク(たぶん「新世界より」だったと思う)を選んでCDを持参しましたが、検討される会員の方に、即座に却下されてしまいました。結局、他のメンバーが持参された竹笛演奏のCDが使用された記憶があります。そのことは、その場にあわせて音楽を使うことが大事だと、反省させられる出来事でした。

私は、地域の集まりで、音楽がどのように使われているのか、意識をしていなかったのです。また、住んでいる住宅地は、地域の祭唄が少ない場所でした。日本の各地域には、仕事唄や、祭事の音楽などがあったようです。私も地域の踊り唄を親戚から習っておけば良かったのです。

この稿では、地域発かどうかわからないですが、地域づくりの視点で私が知っている音楽をとりあげてみたいと考えています(唄(歌)の部分は、「♪」をつけています)。

1. 比叡おろし

1曲目は、最近亡くなられた松岡正剛氏にちなんで、次の曲です。地域の趣を生かして、音楽ができることもあるようです。地域名をいれた唄と言っても、日本の地名を唄うだけでは、その地域を表現しているとは言えないのではないのでしょうか。そして、忘れられたような唄のなかにも、印象的な唄、その地域をあらわすような歌曲があるように思います。

「比叡おろし」の歌詞は、次のようにはじまります。「風は山から降りてくる レタスのかごをかかえて」そして、次のように締めくくります。

♪ うち比叡おろしですねん ♪

♪ あんさんの胸を雪にしておきますえ ♪

2. 岡林信康「村日記」

次は、岡林信康のアルバム「うつし絵」に収録されている曲です。

岡林信康は、1960年代終わりから1970年代に、フォーク・ソング界を代表する歌手として活躍しました。代表的な曲としては、「友よ」や「山谷ブルース」などがあります。アルバムを発表するようになってから数年で、突然、蒸発したかのように音楽界から5年ほども消えてしまいます。行方が知れなかった期間は、農村で農作業にいそしんでいたと自身の本で書いています。

この「村日記」は、その村での時代を唄っているようです。

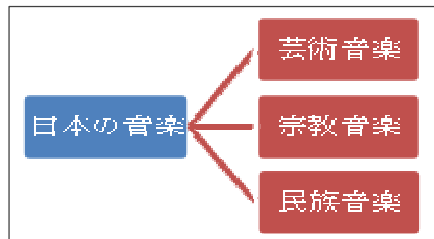
♪ となりの隈ちゃん 鉄砲さげて ♪

♪ 今朝も早から 山へ行く ♪

同じアルバムの「橋〜実録”仁義なき寄合い”」は、村の寄り合いを、おおらかに唄ったもので、歌詞内容を楽しむことができます。

復帰以降、岡林信康は、フォークソングというジャンルに戻ることなく、様々な唄を手がけます。印象的だったのは、「エンヤットで Dancing!!」という唄が民謡のようなリズムだったことです。

フォークだったり、ロックだったり、演歌に近かったりと、あちこちに行き、たどりついたら民謡であったのでし



福井昭史『よくわかる日本音楽基礎講座』より

うか。

なお、音楽の専門誌では、日本の音楽は、一例として右図のような分類になると書かれています。

この中で、民族音楽は、①わらべ歌、子守歌、②民謡、③祭・お囃子などの郷土芸能、に分けられると書かれています。民謡は、民族音楽ということになります。

3. 吉野川筏歌

毎年、12月になると、親戚から郡山城ホールで行われる民謡の発表会に誘われます。アマ・プロ、子ども、大人、混成の発表会が、一日繰り広げられます。地元の方が、日頃の練習成果を発表されるのを見ることも楽しいものです。

民謡は、仕事歌や、祭りの歌が多く、仕事や習慣が変化して、消えてしまったものも多いと言います。「吉野川筏歌」は、木を切り出し、筏で運んでいた時代の仕事歌です。歌詞のなかに、ほほえましい箇所があり、仕事の苦労をやわらげる効果があるように思います。

♪ ハー吉野川にはヨー 筏を流す ♪

♪ 流す筏に 上る鮎 ホーイホーイ ♪

4. 声明、御詠歌

声明、御詠歌は、上にあげた分類では宗教音楽になります。手元にある広辞苑には、それぞれ、次のように書かれています。

○声明：(最初に「インドの五明の一つ」との説明あり)、②日本の仏教の儀式・法要で僧が唱える声楽の総称。狭義には、唄、散華、梵音、錫杖、讃、伽陀などの漢語または梵語による曲を指し、広義には、訓読または和文の論議・経釈・講式・表白・祭文・和讃・教化などを含める。(後略)

○御詠歌：巡礼または仏教信者などがうたう。和歌・和讃にふしをつけたもの。巡礼歌。西国三十三所の御詠歌など

奈良のお水取りの声明では、練行衆が経文をうたわれます。以前見た、お水取りの記録映像には、荘厳な雰囲気の中かで、声明が響いていました。

また、西国三十三所の長谷寺での御詠歌は、豊山流大師講御詠歌として、ホームページに掲載されています。

♪ いくたびも 参る心は はつせ寺 山もちかいも 深き谷川 ♪

声明も、御詠歌も、宗教世界をあらわしたものとして、古都としての奈良という場にあったうた(歌)と言えるのではないのでしょうか。これからも、その場にあった唄や歌を探していきたいと思います。